

学校にて3週間教育実習をさせていただきました。短い期間ではありましたが、多くのことを学ばせていただきました。今回の教育実習を授業と生徒との関わりの2つの観点から振り返りたいと思います。

授業については、授業を行ったり、先生方の授業を見学させていただいたりして学ばせていただいたことの中から2点述べていきたいと思います。1点目はあたりまえのことですが、授業を行うにあたって生徒理解が非常に重要であるということです。複数のクラスで授業をさせていただいたのですが、同じ授業内容でも反応の多いクラスと少ないクラスがありました。反応の少ないクラスでは、発問に対する答えを周りの生徒と確認させるなど、各クラスの生徒の様子によって必要な工夫が異なることに気がつきました。また、見学に行かせていただいた授業で先生が困っている生徒のもとへすぐサポートに向かわれていたことから、生徒のことを理解して授業を行うことの重要性を感じました。生徒のことを理解し、自分が何をすべきなのかということ幅広い視点から考えて授業ができるように努力していきます。

2点目は、電子黒板と黒板のそれぞれの良い点を活かして上手く使い分ける必要があるということです。私はアクティビティの時間を確保することを考え、電子黒板にパワーポイントを表示し、文法の復習を行いました。しかし、授業後に電子黒板は黒板に書く時間を省くことができるという利点がある反面、すぐに生徒の視界から消えてしまうという欠点があるということをご指導いただき、重要な文法事項は消さないかぎり生徒の視界に残り続けるという利点のある黒板を活用すべきだったと気がつきました。今後は電子黒板と黒板のそれぞれの利点を活かした生徒にとって分かりやすい授業作りに励んでいきます。

生徒との関わりについては、教育実習期間中に学ばせていただいたことの中から3点述べたいと思います。1点目は様々な場面で生徒を理解することが必要ということです。実習期間中に生徒が毎日提出する生活記録を見させていただきました。生活記録を読むことでより詳しく生徒について知ることができ、普段のコミュニケーションや日々の観察など生徒と直接関わる場面だけでなく、生徒が書いたものを見て生徒について理解することも非常に重要だと感じました。

2点目は生徒は教師のことをよく見ているということです。私が自信がなさそうにしていたり、不安に感じていたりするとそれが生徒にも伝わってしまい、生徒も不安にさせてしまったことがありました。反対に、私が堂々として楽しそうにしていると、生徒も安心して楽しそうにしているように感じられました。常に堂々として、誰に見られても恥ずかしくない言動をとり、生徒に安心感を与えられるようにしたいです。

3点目は正すべきことはしっかりと正すということです。2週間自ら叱るということがなかなかできないことに悩みました。しかし、注意しないのは優しさではなく、生徒のためにならないと思い、席に戻らない生徒や話を聞いていない生徒に声をかけるようにしました。最後まで叱るということは上手くできなかったと思いますが、日々の小さなことでも正すべきことは正していくということが学級経営において重要だと感じました。

3週間で上記のような多くのことを学ばせていただきました。それと同時に自身の課題を見つける

こともできました。今回の教育実習で学ばせていただいたことを活かして、教師となるために勉学に励んでいこうと思います。